

2020年度 第3回 京大本番レベル模試 国語(文) 採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

京大本番レベル模試 大問一

大問一 問一

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「くこと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 7点

■模範解答

A

過去の人間に対して感性的、無媒介的に共感することは、

B

歴史から切り離された人間一般を想定することになってしまい、

C

共感し合う主体と対象の内部にそれぞれ存在する歴史性を捨象することになるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄三行 一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 過去の人間に対して感性的、無媒介的に共感することは…2点

・何が「困難」にさせるのかということについて、その主部にあたる説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B 歴史から切り離された人間一般を想定することになってしまい…2点

・要素Aが「困難」になる理由として、『人間一般』が想定されるため」という説明がされていないものは、要素B加点数なし

■要素C 共感し合う主体と対象の内部にそれぞれ存在する歴史性を捨象することになるから…3点

・要素Bと合わせて、「歴史性が捨象されるため」という説明がされていないものは、要素C加点数なし

大問一 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答

A

長い歴史の中で人間は自然を支配・統御しようとさまざまな改造をし、

B

人間にとっての利便性の向上や、自然の一部である人間自身の能力の開発をもたらしたが、

C

一方では、産業革命後の急速な改造によって、

D

生態系の破壊や、それにかかわって生じた人間自身の精神的荒廃をも生じさせ、

E

そうした制限の中に生きているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 長い歴史の中で人間は自然を支配・統御しようとするさまざまな改造をし…2点

・人間が自然に対する改造を行ったことの説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B 人間にとっての利便性の向上や、自然の一部である人間自身の能力の開発をもたらしたが…2点

・要素Aの結果、人間の利便性が向上したこと、人間自身の能力も開発したことの説明がされていないものは、要素B加点数なし

■要素C 一方では、産業革命後の急速な改造によって…2点

・(要素AとBが長い歴史の中でなされてきたことに対し、産業革命後に急速な改造がなされたということの説明がないものは、要素C加点数なし

■要素D 生態系の破壊や、それにかかわって生じた人間自身の精神的荒廃をも生じさせ…3点

・要素Cで指摘した「急速な改造」の結果、生態系を破壊したこと、人間自身の精神的荒廃が生じたことの説明がされていないものは、要素D加点数なし

■要素E そうした制限の中に生きているということ…3点

・傍線部「制約されている」の言い換えがされていないものは、要素E加点数なし

大問一 問三

形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 10点

■模範解答

A

価値観・倫理観・美意識は、もともとは秩序ある社会の維持に必要とされた、

B

慣習・伝統・道徳・法といった強制力を持つ社会規範だったが、

C

それが後世の個々人の精神に根づいていき、

D

高尚なものに高められていったということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 価値観・倫理観・美意識は、もともとは秩序ある社会の維持に必要とされた…2点

・要素Bの規範は、社会秩序の維持に必要であったことの説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B 慣習・伝統・道徳・法といった強制力を持つ社会規範だったが…2点

・要素Aのために必要とされた規範が、強制力を持つ慣習・伝統・道徳・法であることの説明がされていないものは、要素B加点数なし

■要素C それが後世の個々人の精神に根づいていき…3点

・外部からの強制である要素Bが、「内面化」されたことの言い換えがされていないものは、要素C加点数なし

■要素D 高尚なものに高められていったということ…3点

・外部からの強制である要素Bが、「昇華」されたことの言い換えがされていないものは、要素D加点数なし

大問一 問四

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 7点

■模範解答

A

我々という存在は、外部を歴史によって取り囲まれ、内部を歴史によって満たされて
いるため、

B

自分自身が何者であるかということを知るためには、

C

人類全体の歴史を明らかにする必要があるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄三行 一行以下のもは全体不可(0点)

■要素A 我々という存在は、外部を歴史によって取り囲まれ、内部を歴史によって満たされてきているため…3点

・「私」と「歴史」の外部と内部でかわっていることが説明されていないものは、要素A加点数なし

■要素B 自分自身が何者であるかということを知るためには…2点

・要素Aであるため、「私」を知るために歴史の理解が必要であることの説明(「私」の部分)がないものは、要素B加点数なし

■要素C 人類全体の歴史を明らかにする必要が生じるから…2点

・要素Aであるため、「私」を知るために歴史の理解が必要であることの説明(「歴史」の部分)がないものは、要素C加点数なし

大問一 問五

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 14点

模範解答

A

「私」という存在の理解しようとして、人間一般を想定しても、それは感性的共感を得ることに止まってしまったため、安易に抽象的な人間性を求めようとするのではなく、

B

「歴史のなかに他者とともにある」という人間の本質的な存在のしかたを念頭に置き、

C

自己の存在に歴史被制約性があることへの理解につながる、

D

人類の歴史の総過程を見据え、

E

歴史の法則や社会のしくみなどについて根底から解明するということ。

採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄六行 三行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「私」という存在の理解しようとして、人間一般を想定しても、それは感性的共感を得ることに止まってしまったため、安易に抽象的な人間性を求めようとするのではなく…2点

・「私とは何者なのか」の問いを、人間一般に求めても抽象化されてしまうので、それでは問いの答えに到達できないということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 「歴史のなかに他者とともにある」という人間の本質的な存在のしかたを念頭に置き…3点

・「私とは何者なのか」の問いは、「歴史のなかに他者とともにある」という人間の本質的な存在のしかたから考える必要があることを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 自己の存在に歴史被制約性があることへの理解につながる…3点

・歴史との関係性を「歴史被制約性」で説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 人類の歴史の総過程を見据え…3点

・要素Cから、「人類の歴史の総過程」に問いの答えを見出す必要性があることを説明していないものは、要素D加点数なし

■要素E 歴史の法則や社会のしくみなどについて根底から解明するということ…3点

・傍線部「徹底的にきたえあげる」の言い換えがされていないものは、要素E加点数なし



■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

※解答例ではすべて「筆者」と表現している箇所を、「私」と表現しても良い」とする。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例

A
散歩中に山羊の体を登る蟻を見て、
B
高い山の頂に立った程度のこと
C
で、
D
広大無辺な自然を征服したかのよう
に思い大騒ぎしている 人間の卑小さをつくづく思い知ったこと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「散歩中に山羊の体を登る蟻を見て」…2点

- ・「散歩中」はなくてもよい。
- ・「山羊の体を登る蟻」は「蟻と喧嘩している山羊」「山羊と蟻の喧嘩」「蟻塚を踏みつぶしている山羊」でも可。

■要素B 「高い山の頂に立った程度のこと」…2点

- ・説明か曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素C 「広大無辺な自然を征服したかのように思い大騒ぎしている」…2点

- ・「広大無辺」「大騒ぎしている」はなくてもよい。
- ・「自然」という語を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素D 「人間の卑小さをつくづく思い知った」…2点

- ・「卑小さ」と同等と判断しうる、人間批判の語があれば、広く許容してよい。

■要素E 答案の文末は、原則として「…こと」という形であること。但し、「…を面白く思った」など、設問の問いに対応していると判断できればよい。不適切な文末と判断されたなら1点減点。

- 形式上の不備
- ・ 文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■ 模範解答例

A

筆者の高等学校への進学の意欲を称賛している(2)に対して、(3)は、実力からすると無謀な挑戦と思

B

C

つつ、挑戦することには反対しないという意味を伝えている。

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 要素A 「筆者の高等学校への進学の意欲を称賛している(2)」…4点

- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

■ 要素B 「(3)は、実力からすると無謀な挑戦と思い」…2点

- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■ 要素C 「挑戦することには反対しないという意思」…2点

- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■ 要素D 両者の違いを説明する答案形式になっていると判断できればよい。明らかに不適切な文末形式と判断されるばあいは1点減点する。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 10点

■模範解答例

A B

高等学校を受験する理由が、高度な学問を求めるといふ純粹なものではなく、単に徴用を逃れたいという不

D

純なものだと、立田先生に気づかれたと筆者は思ったから。

C

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「高等学校を受験する理由が」…1点

- ・主語・主題提示

■要素B「高度な学問を求めるといふ純粹なものではなく」…3点

- ・「純粹」と同等の説明語句がなければ2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素C「単に徴用を逃れたいといふ不純なものだ」…3点

- ・「不純」と同等の説明語句がなければ2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

*「純粹」対「不純」といったBとCの対比が明確に示されていることが満点答案の要件。

■要素D「立田先生に気づかれたと筆者は思った」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素E 文末は「…から…ので」という形式が原則。但し、答案が、設問の求める理由説明の形になって
いると判断できるならよい。不適切と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点 1 2点

■模範解答例

A 国家による戦争に協力するということに疑問を持っていた立田先生は、 B 高等学校に進学し、 C より高度な学問

を究めて D もっと大きな意味で国の役に立ちたいと言う筆者の考えを、 E 技術者にはめずらしい高尚なものと

感じたから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「国家による戦争に協力するということに疑問を持っていた立田先生」…3点

- ・「国家による」と同等の説明を欠いている場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素B 「高等学校に進学して」…1点

■要素C 「より高度な学問を究めて」…2点

- ・「より高度な」はなくても可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素D 「もっと大きな意味で国の役に立ちたいと言う筆者の考え」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素E 「技術者にはめずらしい高尚なものと感じた」…3点

- ・「技術者にはめずらしい」と同等の説明がなければ2点とする。
- ・「高尚な」と同等の説明がなければ1点とする。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素F 文末は「…から…ので」という形式が原則。但し、答案が、設問の求める理由説明の形になっていると判断できるならよい。不適切と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 2点
1点

■模範解答例

A 筆者が高等学校に合格するためには、会社を休んで勉強に打ち込む時間が必要であるが、そのためには仮病
B
でも医者
D の診断書があれば好都合で、大きな目的のためには誠意を捨てて嘘をつくのも仕方あるまいという
C
こと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「筆者が高等学校に合格するためには」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素B 「会社を休んで勉強に打ち込む時間が必要である」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素C 「そのためには仮病でも医者
D の診断書があれば好都合」…3点

- ・「仮病」と同等の説明がなければ2点とする。

- ・「医者
D の診断書」と同等の説明がなければ1点とする。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素D 「大きな目的のためには誠意を捨てて嘘をつくのも仕方あるまい」…4点

- ・「おおきな」はなくても可。

- ・「誠意（良心）を捨てて嘘をつく」に2点、「仕方あるまい（仕方ない）」に2点が目安。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

■要素E 答案の文末は、原則として「…こと」という形であること。但し、「…ことをいおうとしている」など、設問の問いに対応していると判断できればよい。不適切な文末と判断されたなら1点減点。

◆各設問共通

▲内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一(一) 10点

※傍線部(一)を、言葉を補いつつ現代語訳する設問

(模範解答) 鎌倉の大将殿は、やはりこの法師のことをただ者ではないとお感じになったのであろう(10点)

A 0点

やはりただ者ではないとお感じになったのであろう

B 0点

鎌倉の大将殿は、

C 0点

この法師のことを

◆各加要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「やはりただ者ではないとお感じになったのであろう」(6点)

※「おぼし一けん」の解釈

×「お感じになったのであろう・お思いになったのであろう・お考えになったのであろう」というような記述がなければ×。0点。

△「お感じになったのであろう・お思いになったのであろう・お考えになったのであろう」というような記述があれば○。3点。

※「人一ならず」の解釈

△「ただ者ではないと・並の人間ではないと・普通の法師ではないと」というような記述がなければ×。

○「ただ者ではないと・並の人間ではないと・普通の法師ではないと」というような記述があれば+2点。

※「なほ」の解釈

△「やはり・思った通り・どう見ても・そうは言っても」というような記述がなければ×。

○「やはり・思った通り・どう見ても・そうは言っても」というような記述があれば+2点。

B 「鎌倉の大将殿は」(2点)

※「おぼし一けん」の主体(2点)

×「鎌倉の大将殿は・大将殿は・源頼朝(様・殿)は・頼朝(様・殿)は」というような記述がなければ×。0

点。

○「鎌倉の大将殿は・大将殿は・源頼朝(様・殿)は・頼朝(様・殿)は」というような記述があれば、○2点。

C 「この法師のことを」(2点)

※「おぼし一けん」の客体(2点)

×「この法師のことを・円位のことを・西行のことを」というような記述がなければ×。0点。

○「この法師のことを・円位のことを・西行のことを」というような記述があれば、○2点。

問一(2)10点

※傍線部(3)を、言葉を補いつつ現代語訳する設問

(模範解答) 思った通りだ、私はその法師のことを聞き及んでおる。(10点)

A ○ 4点

思った通りだ、

B ○ 3点

聞き及んでおる。

C ○ 3点

私はその法師のことを

◆各加要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「思った通りだ」(4点)

※「されば—こそ」の訳(「つつ」は「…をしては」「…をして」等、反復継続・単純接続の意味なら良い)

×「思った通りだ・やっぱりな・やはりそうだった」というような記述がなければ×。0点。

○「思った通りだ・やっぱりな・やはりそうだった」というような記述があれば○。4点。

B 「聞き及んでおる」(3点)

※「聞き知り—たれ」の解釈

×「聞き及んでおる・噂を聞いて名は知っている・評判は聞いている・その名は聞いて知っている」というよう

な記述がなければ×。0点。

○「聞き及んでおる・噂を聞いて名は知っている・評判は聞いている・その名は聞いて知っている」というような

記述があれば、○2点。

C 「私はその法師のことを」(3点)

※「聞き知り—たれ」の客体

×「お前のことを・円位という法師のことは・あなたの名前は」という客体がなければ×。0点。

○「お前のことを・円位という法師のことは・あなたの名前は」という客体があれば+2点。

※「聞き知り—たれ」の主体

△「私は」という主体がなければ△(2点)。

○「私は」という主体が加われば+1点(3点)。

※傍線部(4)を、言葉を補いつつ現代語訳する設問

(模範解答) その身は出家し、墨染めの衣に姿を変えているけれど、和歌の道におけるその方の名声は、物事の情趣を解さない私のような東国の者までも聞き及んでいるのだよ。(10点)

A 〇3点

その身は出家し、墨染めの衣に姿を変えているけれど、

B 〇3点

和歌の道におけるその方の名声は、

C 〇4点

物事の情趣を解さない私のような東国の者までも聞き及んでいるのだよ。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「その身は出家し、墨染めの衣に姿を変えているけれど」(3点)

※「身は一黒く一やつし一たれ一」の解釈

×「出家しているけれど・墨染めの衣に姿を変えているけれど・目立たないように姿は変えているけれど・わざとみすばらしくしているけれど」というような記述がなければ×。0点。

○「出家しているけれど・墨染めの衣に姿を変えているけれど・目立たないように姿は変えているけれど・わざとみすばらしくしているけれど」というような記述があれば○。3点。

B 「和歌の道におけるその方の名声は」(3点)

※「月花一の一歎き一の一誉一」は「和歌の道」等の意味なら良い

×「和歌の道における名声は・和歌の道における名誉は・和歌の道における評判は」というような記述がなければ×。0点。

○「和歌の道における名声は・和歌の道における名誉は・和歌の道における評判は」というような記述があれば、〇3点。

C 「物事の情趣を解さない私のような東国の者までも聞き及んでいるのだよ」(4点)

※「物一の一心一なき一吾妻人一さへ一聞き知り一たる一ぞ」の訳(「物一の一心一なき」の訳は「物事の情趣を解さない」等・「さへ」の訳)

×「物一の一心一なき一物事の情趣を解さない・風情など理解しない・趣などわからない」というような記述がなければ×。0点。

○「物一の一心一なき一物事の情趣を解さない・風情など理解しない・趣などわからない」というような記述があれば○。2点。

※「吾妻人」の訳

△「吾妻人」東国の人・東国の田舎者・東国人である私・東国人である私頼朝」というような記述がなければ×(2点)。

○「吾妻人」東国の人・東国の田舎者・東国人である私・東国人である私頼朝」というような記述があれば+1点(3点)。

※「さへ」の訳

△「までも」というような記述がなければ×(2点・3点)。

○「までも」というような記述があれば+1点(3点・4点)。

※「聞き知り一たる一ぞ」の解釈

△「聞き及んでいるのだよ・聞き及んでいるのだ」等というように記述がなければ減点1点(1点・2点・3点)。

○「聞き及んでいるのだよ・聞き及んでいるのだ」等というように記述があれば減点しない(4点)。

問二 傍線部(3)について、これは『史記』齊太公世家の次の一節(漢文)によるものであるが、鎌倉の大將殿はここでどのようなことを言いたいのか、説明せよ。

(模範解答) 周の文王が、狩の獲物として、動物ではなく賢人太公を得たと言う故事に做って、ただものとは思えない人物である円位を、自分の屋敷に連れ帰りたいということ。(10点)

A〇5点

周の文王が、狩の獲物として、動物ではなく賢人太公を得たと言う故事に做って

B〇5点

ただものとは思えない人物である円位を、自分の屋敷に連れ帰りたいということ。

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「周の文王が、狩の獲物として、動物ではなく賢人太公を得たと言う故事に做って」(4点)

※「周の文王(西伯)が、太公を得た」という内容理解

×「周の文王(西伯)が、太公(賢人・功臣)を得た」というような記述がなければ×。0点。

○「周の文王(西伯)が、太公(賢人・功臣)を得た」というような記述があれば、3点。

※「狩の獲物として・狩の獲物に動物ではなく・狩りに出たときに」という状況の理解

△「狩の獲物として・狩の獲物に動物ではなく・狩りに出たときに」というような記述がなければ×(3点)。

○「狩の獲物として・狩の獲物に動物ではなく・狩りに出たときに」というような記述があれば11点(4点)。

※「…と言う故事に做って」という内容理解

△「…と言う故事に做って…」と言う例に做って」というような記述がなければ×(3点・4点)。

○「…と言う故事に做って…」と言う故実に做って…」と言う例に做って」というような記述があれば11点(4点・5点)。

○「…(と)いう(こと)。」となっていないものは減点1点。

B 「ただものとは思えない人物である円位を、自分の屋敷に連れ帰りたい」ということ。」(5点)

※「(鎌倉の大將が)いざなひかへらん」という状況の理解

×「円位を、自分の屋敷に連れ帰りたい」というような記述がなければ、0点。

○「円位を、自分の屋敷に連れ帰りたい」というような記述があれば、〇4点。

※「ただものとは思えない人物である円位」という内容理解

△「ただものとは思えない人物である円位・賢人である円位」というような記述がなければ×(4点)。

○「ただものとは思えない人物である円位・賢人である円位」というような記述があれば11点(5点)。

※文末表現

○「…(と)いう(こと)。」となっていないものは減点1点。

問三 傍線部(5)について、これは次の和歌(『万葉集』巻四・相聞)による表現であるが、鎌倉の大将殿はどのようなことを言いたいのか、説明せよ。

(模範解答) 長い旅を続けるうちに、円位が数えきれないほどたくさんの和歌を詠んできた中でも、珠玉の作品として温存している和歌を、自分に語って聞かせよということ。(10点)

A 〇4点

(円位が) 長い旅を続けるうちに、数えきれないほどたくさんの和歌を詠んできた中で

B 〇3点

(円位が) 珠玉の作品として温存している和歌を

C 〇3点

円位の和歌を、自分(鎌倉の大将・頼朝)に語って聞かせよ

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「(円位が) 長い旅を続けるうちに、数えきれないほどたくさんの和歌を詠んできた中で」(4点)

※「八百日ゆく浜の真砂の中には」の内容理解

×「(円位が) 長い旅を続けるうちに・(円位が) 八百日もの長旅の中で」というような記述がなければ×。0点。

○「(円位が) 長い旅を続けるうちに・(円位が) 八百日もの長旅の中で」というような記述があれば、〇2点。

※「(円位は) 数えきれないほどたくさんの和歌を詠んできたろうが、その中で」の内容理解

△「(円位は) 数えきれないほどたくさんの和歌を詠んできたろうが、その中で・(円位は) 浜の砂ほど多くの和歌を詠んできたろうが、その中で」というような記述がなければ×(2点)。

○「(円位は) 数えきれないほどたくさんの和歌を詠んできたろうが、その中で・(円位は) 浜の砂ほど多くの和歌を詠んできたろうが、その中で」というような記述があれば+2点(4点)。

B 「(円位が) 珠玉の作品として温存している和歌を」(3点)

※「玉として拾ひ収めたらんを」の内容理解

×「(円位が) 珠玉の作品として温存している和歌を・(円位の詠んだ) 珠(玉) のように優れた和歌を」というような記述がなければ×。0点。

○「(円位が) 珠玉の作品として温存している和歌を・(円位の詠んだ) 珠(玉) のように優れた和歌を」というような記述があれば、〇3点。

C 「円位の和歌を、自分(鎌倉の大将・頼朝)に語って聞かせよ」(3点)

※「かたりて聞こゆべく」の理解

×「円位の和歌を、自分(鎌倉の大将・頼朝)に語って聞かせよ」というような記述がなければ×。0点。

○「円位の和歌を、自分(鎌倉の大将・頼朝)に語って聞かせよ」というような記述があれば3点。

※文末表現

「…:」(…:という)こと。「…:」となっていないものは減点1点。